

3 自主防災活動をはじめよう ~ 自主防災組織の活動・役割 ~

自主防災組織の活動は、大きく2つに分けられます。

「平常時の活動」・・・日頃から地域内の安全点検や防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施など。

「災害時の活動」・・・実際に災害が発生した場合の初期消火活動、救出救助、情報の収集など。

1 平常時の活動

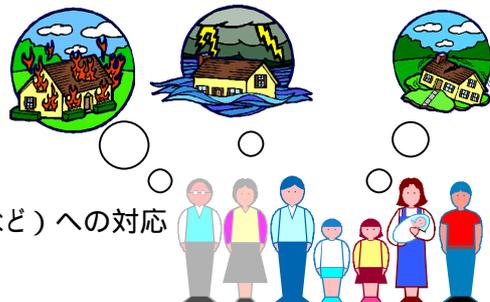
防災知識の普及・啓発

地域の住民が防災に関する正確な知識を身につけていることは、災害時に効果的に活動し、被害の発生及び拡大を防ぐためには大切なことです。

自主防災組織としても、あらゆる機会をとらえて地域住民が防災知識を吸収できるようにする必要があります。

啓発事項の例として次のものがあります。

- 各個人、各家庭での防災対策の方法
- 自主防災組織の役割分担、活動内容の把握
- 地震、水害など災害の性格や内容
- 地震など、突然起こった災害への対応
- 災害時要援護者（高齢者、乳幼児、障害のある方、外国人など）への対応



ポイント! ~ 啓発の方法 ~

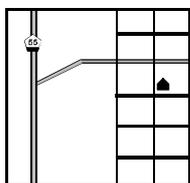
あらゆる会合の機会をとらえて、防災について話し合う。
 県や市町村、消防機関などが主催する防災講演会等に積極的に参加する。
 想定される被害や防災拠点などを地図に書き込みながら議論を行う。
 市町村や消防機関等から地域防災計画などについて説明を受け、協議する機会を設ける。
 地域内を実際に歩いてみて、危険個所の確認等を行う。

地域内の安全点検

日頃から、地域の危険な場所、防災設備、避難場所などを確認し、その情報をみんなで共有することで、地域の貴重な財産として広く活用することができます。

確認や点検する項目の例として次のものがあります。

- 地域の地理（地形、地質、水利、住宅密集箇所など）
- 地域の生活（世帯数、昼夜別人口、家族構成、災害弱者、店舗、医療機関など）
- 地域の危険個所（危険物集積場所、倒壊の恐れのある建物・煙突・ブロック塀、土砂災害危険区域、浸水しやすい場所など）
- 地域の安全個所（井戸や貯水槽等の水源、消火器等防災備蓄場所、避難場所、学校や役場などの公共施設など）



ポイント! ~ 防災マップをつくろう~

地域内の安全点検を行ったら、その情報を地図上に盛り込んだ「防災マップ」を作製します。自分たちで作製し、地域住民に周知することで、住民の関心や防災意識が高まります。防災マップを作製する際には、個人のプライバシー情報や利害対立などを配慮し、合意を得ておく必要があります。

防災訓練

実際に災害が発生すると、とっさに行動に移すことは難しいものです。日頃から繰り返し訓練を行うことで災害時の活動を身をもって覚えることができます。

個別訓練

情報連絡訓練

被害状況、災害危険箇所、避難状況などの情報を正確かつ早く集めます。また、その情報を市町村や消防機関などに伝え、指示などを住民に伝達する訓練を行います。

また、電話等が不通になることもふまえて、災害伝言ダイヤル「171」や「iモード災害用伝言板サービス」の使用方法を身につけておくとい良いでしょう。

自主防災組織としてあらかじめ情報を集約できる本部を設け、伝達経路を定める。
 情報を収集する人、伝達する人といった役割を決める。
 情報の伝達は、わかりやすい言葉でメモ程度の文書にして渡す。
 数字の伝達は特に注意する。
 聴視覚等の障害のある方や外国人への情報の伝達には十分配慮する。



初期消火訓練

消火器、可搬式ポンプなどの使用方法や消火技術を身につけます。
 隣近所の人同士でバケツリレーや消火器による消火活動ができる体制をつくります。

避難訓練

指定された避難場所まで早く安全に避難できるようにします。
 各個人の避難時の携行品や服装を見直します。

あらかじめ、安全な避難経路を確認しておく。
 指定避難場所まで実際に行ってみる。
 地震、津波、火災、水害など災害の種類にあわせた避難訓練を行う。
 災害時要援護者の避難方法に配慮する。



救出救助訓練

はしご、ロープ、エンジンカッターなどの使用方法について学び、けがをした人の救護活動や応急手当の方法を身につけます。

給食給水訓練

炊飯装置や、ろ水装置の使用など限られた資機材を有効に活用して食糧や水を確保する方法を身につけます。また、食糧や水をみんなに効率よく配給する方法についても訓練します。

総合訓練

個別訓練によって覚えた技術を総合して、お互いに連携を取りながら、効果的な防災活動が行えるようにします。

ポイント! ~ 訓練は楽しく安全に ~



訓練の内容によっては、専門的な知識や技術を必要とするものがあります。訓練を安全に行うためにも、消防機関等の指導を受けることが大切です。

災害はいつ発生するかわかりません。訓練は同じ曜日や時間帯に行うのではなく、曜日や時間をずらして行うのが効果的です。(1回目 日曜日昼 次回 水曜日夜 など)

訓練は堅苦しいものである必要はありません。「楽しみながら行って、更に知識や技術が身についた」といったものの方が、より多くの人に参加してもらうことが出来るでしょう。

県や市町村、消防本部で行っている防災訓練などには積極的に参加することで、防災に対する知識が一層深まります。



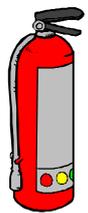
防災資機材の備蓄

自主防災組織が災害時に情報収集、消火、救出救護、避難誘導、給食・給水などの防災活動を行うには、それぞれの活動に必要な資機材を備えておく必要があります。

その場合、地域の実情や組織の構成からみて、どのような資機材を備えるのが良いか、市町村や消防機関の指導を受け選ぶのがよいでしょう。

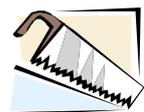
整備する防災資機材の例は次のとおりです。

情報連絡用	ハンドマイク・携帯用無線機、携帯用ラジオ など
初期消火用	消火器、水バケツ、砂袋、街頭用消火器、可搬式小型動力ポンプ、消火栓用ホース、防火衣、ヘルメット など
救出救護用	バール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ペンチ、ハンマー、ロープ、チェンソー、エンジンカッター、担架、テント、救急セット、毛布、シート など
避難用	強力ライト、標旗、ロープ、ハンドマイク、警笛 など
給食給水用	炊飯装置、鍋、こんろ、給水タンク、ろ水機、ガスボンベ など
水防用	救命ボート、救命胴衣、防雨シート、シャベル、土のう袋 など
その他	資機材格納庫、リヤカー、ビニールシート、発電機 など



ポイント! ~ 資機材はいつでも使える状態に ~

整備した資機材は、定期的に点検し、使い方などを覚えておき、いつでもすぐ活用できるようにしましょう。



日々の自主防災活動は、決まった人達だけが活動するのではなく、地域のみんなで行うことが大切です。

また、防災機関や他の地域の自主防災組織と協力しながら活動していくことで、より大きな力が発揮されます。